

東葛しぜん観察会

第138回 夏の自然たんけんラリー

藤田 隆 (松戸市)

日 時: 2017年7月30日 (日) 13~15時 天気: 曇り

場 所: 21世紀の森と広場 パークセンター～みどりの里 (松戸市)

参加者: 大人28名、子ども39名、指導員14名

担当指導員: 壱岐 野坂 藤田

「夏の自然たんけんラリー」は13~15時で行いました。設営確認と下見にあてた10時から曇天で参加者の出足が気になりましたが、雨に降られず、総計67名と参加者が「たんけんラリー」を回るにはちょうど良い人数で実施でき、幼稚・小学校低学年の子どもと親の組み合わせが多くを占めました。「生き物探し」のポイントで30代の男性が小さなヒシバッタを捕獲したので、「もう一振り大物を」と勧めると、「大物は子どもたちに残しておこう」と次のポイントに行かれたのが印象的でした。中学生4人組は最初のうち所在無げでした。ところが一人がバッタを捕まえると、私も私もと補虫網を大振りして虫を追いかけ、しばらく夢中になっていました。

「たんけんラリー」は5月と6月にも行いましたが、季節によって出し物を変える工夫が足りなかつたことを反省、シロツメクサ、オオバコ、ヒマワリを扱うには少し時期が遅かったようです。そこで「ヒマワリにスターをさがせ」では、ヒマワリ以外の植物の星を見つけに行った小学生から「コスモスにもあったよ」と報告があって、その探求心に、思わず指導員はハナマルをつけてあげました。

指導員からの感想を交えて探検の中身を紹介すると、「草花あそび」では、オオバコの穂が出ていないため、オオバコの筋だし競争をやってもらい、シロツメクサでは、家族に手伝ってもらいながら指輪、腕輪を作っていました。「ドングリ探し」では今年のドングリの赤ちゃん、昨年のドングリの赤ちゃんを探してもらいました。ドングリのポイントでは、参加者の滞留を見込んで観察できるドングリを複数見つけておく必要性が指摘されました。

「におい探検」では、クサギの葉をつまんで、そのにおいを表現してもらうクイズでした。葉に匂いがあること、匂いを自分なりに表現することがポイントでした。周辺にはヨモギとセリがある場所ですが他の草が伸びていて目立たなくなっていたので、匂い探検の題材探しが課題となりました。「ヒマワリにスターをさがせ」は子どもに交じって大人も探検していたのが印象的でした。ヒマワリは時期的に遅かったので別の題材に振り替えることが検討課題になりました。

「いきものさがし」は、公園側への依頼が功を奏して、昆虫が多い場所を選定でき、虫めがねでじっくり見ることができた点、ワンポイント解説ができたことが感想として挙がりました。「ダンゴムシレース」はダンゴムシのオス、メスに大人の関心が集まり、競争のゲームが気に入ったのか再チャレンジに訪れる子どももいました。「ハスたんけん」では、スプレーを使ってハスの葉のロータス効果実験とハスの茎のブクブク体験をしてもらいました。ただし、参加者が滞留する時の策が検討課題になりました。「はさがけクイズ」は稻、コメ、ご飯の関係をテーマとするクイズへの検討が課題になりました。水田へ落下する子どもがいたので、看板の立て方等への工夫が必要ではないかとの指摘があり、終了時刻をたんけんカードに記入しておくとよいとの意見もありました。

参加者が驚きや発見を持ち帰ってくれることに、嬉しい気持ちがまた一つ増えていることを感じました。



草花あそびは2種類を用意